# 「浜松城跡発掘調査現地説明会」開催

浜松城公園長期整備構想に関わり、令和元年６月から浜松城（元城小学校跡地）で行われている発掘調査において、本丸を囲む石垣や堀が確認されたことで、９月26日(土)に市民向けの現地説明会が開催されました。当日は多くの市民が参加され、当会の多数の会員も熱心に見学していました。

今回の発掘調査において、本丸を囲む石垣と堀の構造や本丸の規模が確認され、本丸東側にも石垣が構築されていた可能性が高いと考えられています。また御誕生場の形状と遺構や二の丸の建物基礎などの調査成果もあがっているとのことです。

**＜今回の調査で確認ができた遺構の概要＞**

**①本丸の石垣と堀**

本丸北東部隅の石垣が確認された。北面で最大６段(1.2m)あり、東面南端では１段で自然地形に合わせて石垣が構築されている。天守曲輪等の石垣と特徴が共通しており、堀尾氏時代の石垣と捉えられる。

今回検出した石垣は、天守台や天守曲輪の石垣と同様に、主にチャート石が用いられ、あまり加工せずに積み上げ、石と石の間には小型の石を詰め平滑な石垣面に仕上げられている。隅角部は石材の長辺と短辺を交互に積み上げ、短辺の脇に小型の石が用いられている。1590年代の特徴を有している。

本丸北東部の石垣と堀

**②本丸東側の石垣と堀**

本丸東側の堀が確認された。深さは検出面から４m、幅10m。元城小跡地南端から北へ30mのところで堀が途切れており、当時は堀が途切れた部分近くに本丸裏門があったと想定できる。

堀の東岸には大量の石材が埋もれており、江戸時代の絵図の通り石垣があったものと考えられる。

二の丸の建物の礎石

**③二の丸の建物基礎**

二の丸内で建物の基礎である礎石を確認した。二の丸御殿の建物基礎である可能性がある。

**④お誕生場の形状と遺構**

二代将軍徳川秀忠の誕生に関わる伝承をもつ区域で、現状では幅25m程度ある。全長は本丸東側の堀の北端から南へ60m程度と推定される。

広報部　袴田修司（北ブロック）

**◆広報部よりお知らせ◆**

新型コロナウイルスの感染拡大防止に鑑み、総会を始め、各種イベント、研修会等の開催自粛に伴い、会報の６月号から９月号までは、活動状況を掲載する記事が無いため、やむなく「休刊」しましたが、この度、久々に10月号として発行の運びとなりました。ご一読いただければ幸いです。

今後も状況により、会報発行を「休刊」することがあるかと思いますが、コロナが早く収束することを願いつつ、記事が集まり次第発行したいと思っていますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

広報部長　小池輝夫

会員の交流広場

# 銅鐸への思い

私の住む細江町は、都田川流域で新しいタイプの銅鐸（見る銅鐸）が多く出土したことから、銅鐸の町として知られています。細江町中川の滝峯の谷の一画は「銅鐸公園」として整備され、才四郎谷銅鐸が出土したときの状態が再現されています。また、気賀の「姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館」には、都田川周辺や三ヶ日町で発見された銅鐸（実物６点、レプリカ２点、写真２点）及び出土状況レプリカや滝峯の谷のジオラマ等が展示されています。

銅鐸型花瓶

私は、趣味の範囲ながら３～４年前から陶器の銅鐸を（銅鐸というより陶鐸です）作っているのですが、土物の場合、上部の鈕の部分は薄く作るとひずみ易いし、空洞になっている下部である身の部分に描かれた細かい模様を盛り上がった突線で描くのは至難の業なので、窪んだ線で描かざるをえませんでした。そこで、石膏で型を作り泥を流し込んで作る鋳込みにより小さな陶鐸を作って銅鐸型風鈴にしました。やがては大きなサイズの突線式の物を作ってみたいものですが。

大型化した銅鐸を見ると、実に整った形と細かく正確な模様に圧倒されます。しかも、陶器の鋳込みの場合は石膏が水分を吸って土が乾くため石膏型ひとつで出来るのですが、青銅器の場合は外型と内型（中子）の隙間に銅・錫・鉛の合金を流し込むのです。日本最大のものは高さ 134,7cm といいますから弥生人の高度な技術には感心させられるばかりです。

銅鐸型風鈴

「見る銅鐸」は三遠式と近畿式に区分されています。写真の銅鐸（陶鐸）は滝峯の谷の悪ヶ谷で出土した三遠式の銅鐸をモデルとしたもので、鶴と鹿の絵が描かれているのが特徴です。機会があれば次回は、耳飾りのある近畿式の才四郎谷銅鐸を模してみたいと思っています。

銅鐸に興味を持つようになって調べてみますと謎だらけです。銅の合金はどんな入れ物で溶かしたのか？原料は朝鮮・中国から？…また、朝鮮式の小銅鐸が北部九州に渡ってきてやがて姿を変化させながら近畿地方へ、そして三河・遠州へも広められたと考えるとき、なぜ？どのような力に支配されて？と、古代の歴史を動かした勢力との関連も様々な考察がされていて興味が尽きません。

銅鐸は弥生時代に作られ使用されましたが、文字の無かった時代の為その用途は推測の域を出ないところが魅力でもあります。これまでに全国で約 600 個出土された銅鐸は、考古学研究者によれば次のように説明されます。

＜銅鐸とは＞

陶製銅澤

紀元前２世紀頃～紀元２世紀頃までの 400 年間に制作・使用された青銅製鋳物である。

＜用途＞

豊作を祈る集団共有の祭器として使われた。

丘の斜面などの聖域に埋め、祭りの時に掘り出して使い、終わるとまた埋めた。（弥生時代の遺跡・集落の境い目に出土していることから、外敵や悪の進入を防ぐ祭りを行って埋めたとも推測されています）

＜銅鐸の変遷＞

「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へ。

当初は、内側につるした棒（舌）を揺らして鳴らすベルであったが、次第に模様や絵が描かれ装飾を凝らした大きく立派な宝器となり、鳴り物の機能は失われた。

やがて支配者が君臨する古墳時代になると、集団共有の祭りの銅鐸は使われなくなり埋もれたままになった。（古墳からは権威の象徴と推測される銅鏡が見つかっています）

北ブロック　曽布川千佳子

## 県民の日イベント「細江町最古の寺長楽寺の散策」に参加

コロナ禍に加えて連日の極暑の中、ぎりぎりまで開催が危ぶまれましたが、８月２２日(土)に細江町歴史・文学グループ主催による「県民の日」おもてなし体験イベントが実施されました。

９時半長楽寺駐車場集合、一般参加は 15 名ほどでしたが、庵主吉田真響さんより長楽寺の歴史や近藤家との関係についてのお話を伺った後、三密を避けながら庭園・境内を散策。見どころ 12 箇所をスタンプラリー形式で探り当て、スタッフの方々の定点ガイドにて詳しい説明を受けました。

近藤用隋(もちゆき)公像

馬頭観音・梵鐘等の文化財の他、気賀近藤領三十三観音の一番観音と三十三観音の双方が長楽寺にあり、しかも最後の三十三観音が庭園内に祀られているということより推察される当時の歴史的背景を興味深く伺いました。

一番観音

梅のトンネルや光岩山、満天星の庭、ドウダンツツジで有名な長楽寺は元々は近藤家の祈祷寺だったとのこと。

本堂は、ミカン畑開墾の際の工事事故により大破してしまって再建はされていないそうですが、かつては山の中腹の本堂から広々とした浜名湖が見え、観音様も喜ばれたことでしょう。

私は長楽寺西側を静かに流れ落ちる弘法の滝の脇にひっそり佇む一番観音に心惹かれました。

尚、この日は宝永４年（1707 年）の大地震による高潮塩害にて稲作が出来なくなり、い草栽培に貢献された近藤用随(もちゆき)公の墓供養の日だったようで、庵主様も途中からそちらへお出かけになりました。 長楽寺入り口の街道沿いに用隋公が鎮座し昔を偲ぶことが出来ます。

南ブロック　金原里枝

## 新入会員の入会動機

会社の退職を機にこれからの人生において、社会に役立つ何かをしたいと考えた時に観光ボランティア活動に興味を抱きました。これまで訪れた寺院、神社、お城などの観光スポットでは観光ボランティアの方の説明を聞くことで短い滞在時間を有意義に過ごすことができ、訪れた街、都市の印象が非常に良くなったことを経験しました。

生まれ育った浜松、小学校・中学校・高校と通学路だった姫街道、身近にあった史跡、千人塚、一里塚、三方ヶ原古戦場、犀ヶ崖…。先日 NHK で放送された“ブラタモリ”で浜松がなぜウナギの名産地になったのか、なぜ楽器の街と呼ばれるようになったのか、歴史を学ぶことでこれからの浜松の将来を見据えることも出来る、こんな素晴らしい事も体験できると考えて観光ボランティアに応募しました。これからは観光ガイドを通じて多くの方々に浜松の魅力を伝え、素晴らしい出会いと感動、わくわく感、ときめき感をいっぱい経験してこれからの人生を皆さんと一緒に楽しみたいと思います。

北ブロック　石津良章

昨年４月主人の転勤で８年ぶりに浜松に戻って来ました。

何か新しいことを始めたいと思っていた時、広報はままつで観光ボランティアガイドの講座があることを知りました。生まれ育った地元のことを勉強しながら伝えることが出来ることに魅力を感じ入会させて頂きました。

中ブロック　戸ヶ里るみ子

浜松の歴史に興味を前から持っており、特に徳川家康の居城、浜松城にも関心がありました。

在位 17 年間が天下取りへの基礎づくりになったのではないかと思います。又、400 年前に浜松の町づくりに貢献した偉大な人物と思いをはせてきました。

浜松の観光ボランティアガイドで家康と浜松の歴史をより深く知る機会になるのではないかとの思いで入会を希望しました。

中ブロック　内山達夫

## 会員の交流広場

## ～たかぽんの独り言　２～

今は昔、東京浅草の鷲神社酉の市でもらったパンフレットに浜松市大安寺の名前を見つけて驚いたことを思い出しながら、ぶらり有楽街を散策です。

以前はお洒落なファッション店が並んでいましたが、今や居酒屋通りに変貌しました。数年前、ここを新宿歌舞伎町に見立て綾野剛さん、山田孝之さんなどの映画「新宿スワン」のロケが行われネットで拡散、野次馬でロケが中止に追い込まれた事もありました。そんな中に昔ながらの赤鳥居の「黒田稲荷」は鍛冶町浄鏡院に祀られていましたが、明治に廃寺になった後も町民の熱心な信仰により残されました。

ここにある都市伝説を御存知ですか？

「売れない呉服商が、ある日、黒田稲荷神社脇に貼られていた新人歌手のコンサートのポスターを目にして神社を参拝してから、着物を売り込みに行ったところ交渉成立。その歌手はその後レコード大賞を受賞する大ヒット歌手となり、呉服商の着物もおおいに売れるようになりました。」それ以来、密かに訪れる芸能人も多いとか？その歌手とはアンコ椿は恋の花～都はるみさん、今でも大きな絵馬が飾られています。本当かどうか？知りませんが。

そうそう、黒田稲荷の向かい側のミソノイサイクルさんは創業明治 30 年日本最古の自転車屋なんです。ちなみに昭和 32 年日本最初のサイクリングラリー大会が浜名湖周辺で開催されました。ガイドのマニュアルにも載せましょうか。

鍛冶町通りに出て、かつては松菱内で営業していた昭和 14 年創業「秋芳洞のカステラまんじゅう」を頬張りながら歩けば「松菱の屋上遊園地」「お子様ランチ」「エスカレーターの前で一歩目が踏み出せないでいるおばちゃん！」楽しい思い出が甦ってきます。

さて、そろそろ時間なので春華堂本店の「うなぎパイ」を買って帰ります。何処でも売ってるじゃん？いやいや割れた製品を詰めたお徳用袋が家でおやつに食べるなら最適だに。観光客さんにも教えてあげるとレア物として喜ばれます。早く行かないと売り切れちゃうに！

西ブロック　飯尾　隆

## ９月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

**「浜松城」「犀ヶ崖資料館」「浜松まつり会館」**、浜松駅構内の**「浜松市観光インフォメーションセンター」**にて、来場者にガイドを行っています。また、この４カ所の他に、「家康の散歩道」同行ガイドや、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

### ≪浜 松 城≫

| | | | |
|---|---|---|---|
| ８日 | 火 | 名古屋市立志段味中学校 | 39 名 |
| ９日 | 水 | 阪急交通社 | 15 名 |
| 10 日 | 木 | 磐田市立田原小学校 | 50 名 |
| 11 日 | 金 | **二俣小学校** | 44 名 |
| 17 日 | 木 | **篠原小学校** | 35 名 |
| 18 日 | 金 | **上島小学校** | 150 名 |
| 20 日 | 日 | 東海道を歩く　クラブツーリズム | 24 名 |
| 21 日 | 月 | こぱんはうすさくら丸塚教室 | 16 名 |
| 29 日 | 火 | **上阿多古小学校** | 12 名 |
| | | **浅間小学校** | 104 名 |
| | | **蜆塚中学校** | 10 名 |
| 30 日 | 水 | **新原小学校** | 69 名 |
| | | 藤枝特別支援学校中学部 | 13 名 |
| ＊ | | 上記以外に９名以下の３団体 | 19 名 |

### ≪犀ヶ崖資料館≫

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 日 | 木 | **篠原小学校** | 33 名 |
| 18 日 | 金 | **上島小学校** | 101 名 |
| 29 日 | 火 | **浅間小学校** | 104 名 |
| | | **蜆塚中学校** | 61 名 |

### ≪浜松まつり会館≫

＊　団体入場者なし


はままつ案内人会報　219号

編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会


〒430-0946
浜松市中区元城町 100-2　(浜松城内)
ＴＥＬ＆ＦＡＸ　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　http://www.hama-svg.jp/


はままつ案内人　検索